

# 95% 赤ちゃんに母乳

赤ちゃんの栄養は生後一カ月では母乳、あるいは母乳と粉ミルクの混合栄養が計95%（小数点以下四捨五入）に達し、粉ミルクだけの人工栄養は長期的に減っていることが、厚生労働省の二〇〇五年度乳幼児栄養調査で分かった。

## 厚労省05年度調査 人工栄養は徐々に減少

調査は〇一年六月から〇五年五月までに生まれた子ども二千七百二十二人の母親を対象に昨年九月に実施し、今年六月に結果をまとめた。

母乳育児の割合は、妊娠中や出産後に母乳育児について医療施設で具体的な指導を受けた女性ほど高かった。

授乳期の栄養は生後一カ月で母乳だけの母乳栄養42%、混合栄養53%、人工栄養5%、三カ月では母乳栄養38%、混合栄養41%、人工栄養21%だった。

一九九五年度の調査では母乳栄養46%、混合栄養46%、人工栄養8%（生後一カ月）、八五年度は母乳栄養50%、混

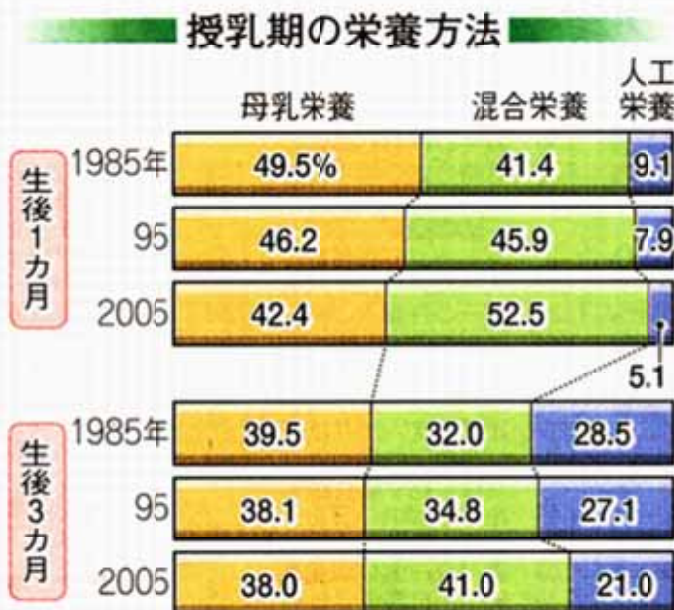
合栄養41%、人工栄養9%（同）。母乳栄養の割合は減っているが混合栄養が増え、全体で母乳を与える割合が増加している。

今回の調査では、妊娠中に96%が「母乳で育てたい」と考えていた。

母乳は赤ちゃんの成長に不可欠な成分を持ち、免疫を高めるなどの特長があることから、世界保健機関（WHO）と国連児童基金（ユニセフ）は一九八九年に「母乳育児を成功させるための十カ条」を発表し、出産施設での母乳育児支援態勢を奨励している。

今回は、うち「出産直後か

## WHOとユニセフも奨励 「出産施設の支援充実を」



（厚生労働省2005年度乳幼児栄養調査）

「母子同室」「出産後三十分以内に母乳を飲ませる」「欲

しがる時はいつでも母乳を飲ませる」の三項目を調べたところ、実施率はそれぞれ17%、32%、53%だった。厚労省は「出産施設での支援の充実が望まれる」としている。